

授業開講年度	2025	開講キャンパス	さくら夙川キャンパス
開講学期	秋学期	開講曜日・時限	月曜4限
科目コード	ZG0004	授業コード	45186
レベルナンバー		配当年次	1
授業科目名	考古学の扉		
担当教員名【代表】	森下 章司		
担当教員名			
授業形態			
授業方法			
単位数	2.0		
ディプロマポイント評価観点(※本科目がどの項目に該当しているかを示す)			
Knowing			
(知識とリテラシー)	教養と専門知識【DP1】		知識・情報を活用する力【DP2】
Doing			
(実践力)	国際感覚【DP3】		対人基礎力【DP4】
	対自己基礎力【DP5】		対課題基礎力【DP6】
Being			
(信念と志)	豊かな人間性と肯定的自己概念【DP7】		社会的責任【DP8】
授業の目的	考古学とはどんな学問か、資料・調査・研究法の特徴と目的について実例を元に理解する。		
到達目標	考古学の調査・研究成果の基本について理解し、説明できるようになる。史学の一分野としての特色を把握し、代表的な遺跡や基本用語を使って考古学の学問的位置づけについて説明できる。		
授業概要	さまざまな遺跡や調査例を元に、考古学とはどんな学問であるのか、多面的に理解する。		
課題レポート等	el-campusを用いた理解度確認テストや小課題を実施。		
フィードバックの方法について	el-campus上や授業内で課題の結果について解説。		
授業時間外学習	講義で取り上げた遺跡や資料に関するより詳細な内容を記した配布資料、授業ノートを元に、自分で関連する書物やWEB資料を確認し、講義内容についてより理解を深める。		
授業回数	主題	概要	授業時間外学習(学習内容・時間)
01	考古学とは	考古学の学問としての特色を知る。	配布資料・ノートに基づき遺跡や考古学調査の実例や考古学の発見に関わるニュースをみておく。(2時間)
02	考古学と発見 1	トロイの「発見」を題材として、考古学における「発見」の意義を理解する	配布資料・ノートに基づき遺跡や考古学調査の実例や考古学の発見に関わるニュースをみておく。(2時間)
03	考古学と発見 2	ツタンカーメン王墓の「発見」例を題材として、考古学における「発見」「調査法」の意義を理解する。	配布資料・ノート・WEB資料に基づき遺跡やツタンカーメン王墓の発見とその内容の詳細をみておく。(2時間)
04	日本考古学のあけぼの	現代の考古学成立以前の日本における遺跡調査、研究成果を把握する。	配布資料・ノート・WEB資料に基づき考古学の初期の調査の詳細をみておく。(2時間)
05	日本考古学の確立	現代の日本考古学につながる調査・研究法の確立過程を学ぶ。	配布資料・ノート・WEB資料に基づき講義で取り上げた人物や調査した遺跡の詳細をみておく。(2時間)
06	遺跡の形成	遺跡とはなにか、どのようにして形成されるのかを解説する。	配布資料・ノート・WEB資料に基づき、講義で取り上げた遺跡以外の遺跡の形成状況を広く見ておく。(2時間)
07	発掘と整理の実際	発掘調査の目的は何か、どのようなプロセスで行われるのか、発掘調査と整理作業の実際を学ぶ	配布資料・ノート・WEB資料に基づき遺跡の調査の実例をみておく。(2時間)
08	考古学資料の遺存	土中において、失われやすい資料の特質、遺存する資料の性質について学び、	配布資料・ノート・WEB資料に基づき、各種遺跡における遺跡・遺物の遺存状況

		考古学資料の性格を理解する。	を確認する。(2時間)
09	遺跡と遺物の保存	さまざまな要因で失われやすい考古学資料の性格と文化財保存の意義を学ぶ。	さまざまな実例を調べて、文化財とは何か、理解を深める。(2時間)
10	水中考古学	水中遺跡の特徴、資料的性格を学ぶ。	配布資料・ノート・WEB資料に基づき、講義で取り上げた以外の水中遺跡の実態をみておく。(2時間)
11	考古学の時代区分と社会の変遷	考古学的な理解による年代区分、人類社会の時代による変遷を学ぶ。	講義内容に基づいて、人類の歴史を考古学的に説明できるようにまとめておく。(2時間)
12	縄文時代の生活と環境	考古学の研究成果による各時代のトピックの解説(1)。	配布資料・ノート・WEB資料に基づき縄文時代の各種資料・用語、生活の特質について理解を深めておく。(2時間)
13	弥生時代の戦争	考古学の研究成果による各時代のトピックの解説(2)。	配布資料・ノート・WEB資料に基づき、考古学における戦争のはじまりの認識、資料、その背景について理解を深める。(2時間)
14	邪馬台国論争と考古学	考古学の研究成果による各時代のトピックの解説(3)。	さまざまな邪馬台国論争に関してWEBなどを参照して、みておく。(2時間)
15	まとめ試験	講義のまとめと理解度を確認するための試験	講義全体の内容を自分でまとめ、理解度を確認しておく。(2時間)
成績評価の基準と方法		理解度確認テストなどの課題(40%)とまとめ試験(60%)	
教科書		毎回、資料を配布する。	
参考図書		講義内で適宜指示する。	
授業に関する質問等の方法		初回授業で担当教員に確認をしてください。	
備考		必ずノートを作成すること。単に板書を写すのではなく、理解しえたことをまとめてゆくこと。ある内容を講義・図写真資料・視角資料を通じて理解する力を養うことも目的としている。	
短大同時開講使用欄			